

生 じ ゃ っ 力

SHINGON

【特集】

お寺の行事に参加しよう ご先祖^{せんぞ}さまを供養^{くよう}する年中行事 —お施^せ餓^が鬼^き・お盆^{ぼん}・お彼岸^{ひがん}—



Vol.
93

真言宗智山派

仏さまに祈り 仏さまと出会う

目次

今日の法語	江連俊隆	2
智山寺院探訪 如意山金剛寺		3
特集 お寺の行事に参加しよう		6
お大師さまとご信仰	田村宗英	10
教えは伝わる		
一真言八祖解説一	別所弘淳	11
図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏⑩」		
え・悟東あすか		12
ゆーけいの写仏をするよろこび	牧 有恵	14
日本の四季を切り取る十七文字	星野高士	15
総本山の便りをお知らせします		16
らせんのなかのブツダガヤ	中嶋亮順	18
ごくらくらくご	三遊亭竜楽	19
御詠歌で綴る十善戒の教え	佐々木真光	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記		22
真言宗智山派出版物のご案内		23
桃山の息吹に触れる	安原成美	24
お大師さまカルタ	川崎一洸・三船毅志	26
花に聞く 仏に聞く	佐々木隆元	28
仏教と妖怪	今井秀和	29
私のお大師さま		
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko 内藤理恵子		30
ご本尊さまと出会う	小笠原隆浩	31

仏教について	仏教と文化
わたしたちの生活と仏教	お知らせ

表紙写真 北海道豊富町 花と利尻富士

北海道北部の日本海側に位置するサロベツ原野。6月下旬から7月上旬に架けて咲き誇る真紅のハマナスと黄色いエゾカンゾウの大群落はサロベツ原生花園の代表的な光景だ。湿原を覆う黄色の絨毯の遥か先には、見事な円錐形をした利尻岳が地平線の上に顔を覗かせている。北海道の澄んだ青空の元、爽やかな風に揺れる草花と利尻岳の風景にはしばし歩を止めざるを得ない。

目次写真 北海道豊富町 利尻岳夕景

サロベツ原野の西の海上に浮かぶ利尻島はほぼ円形で、その中央に利尻岳がそびえている。その形状から利尻富士とも呼ばれ、海面から突如顔を表したような美しい円錐形の山容は、まさに洋上の名山だ。サロベツ原野の海岸線には、陽が西に傾くと、見事な二等辺三角形の姿がくっきりと浮かび上がってくる。浜に出て夕日待つ。やがて、空が茜色に染まると利尻富士はその美しい容姿を一層誇示した。

撮影・解説/山梨勝弘



結心

「ゆいごころ」は、合掌造りで知られる白川郷の村人たちに根付いている「結」という助け合いの心です。

集落一丸となつて行かう茅葺屋根の葺き替え作業は、大変な労力と時間を要しますが、それにも関わらず、すべて無償で行われているそうです。

ひとりひとり見返りを求めずに手を取り合いながら暮らしている村人たちの心は、互いに相手を想い、敬い合う「相互合掌」の気持ちそのものです。

きつと、目には見えない心の糸で繋がっているのでしょう。

合掌

今日の法語「結心」

江連俊隆 (埼玉県川口市・地藏尊院住職)



平成29年10月に落慶されたばかりの真新しい本堂。

智山寺院探訪



東北三十六不動尊霊場第二十四番札所
気仙三十三観音霊場第二番札所
岩手三十三観音霊場第十七番札所

岩手県陸前高田市

如意山 金剛寺

興に向かつて確実に歩みを進められているこのお寺を訪れました。

金剛寺の歴史

金剛寺は、正式には「如意山一乗院金剛密寺」といいます。ご本尊さまである如意輪観音さまは東日本大震災の折、本堂諸堂共に流されましたが、奇跡的に泥中より発見され、現在は修復も済み新本堂に祀られています。

開基は仁和四年（八八八）、第一世有鑑法印とされています。『気仙風土草』によれば、

「都から奥州に下向させられた歌人の大江千里が、有鑑法印を頼って都へ戻るように祈願したところ、恩赦を受けて帰洛することができた」とあり、このことに感謝して建てられた寺院であると伝えられています。現所在地である今泉地区に移転した後は、旧気仙郡（陸前高田市、大船渡市、住田町、三陸町）の祈願所として定められ、江戸時代には常法檀林（学問所）として僧侶の育成に力を注ぎ、岩手の修行道場として歴史を積み重ねてきました。

境内の高台に歩みを進めると、数えきれないほどの桜が目飛び込んできます。この地域に伝わる「けんか七夕祭り」は岩手県の民族無形文化財にも登録されており、祭りに使用される「アザフ」と呼ばれる飾りは、金剛寺の枝垂れ桜を模したと伝えられています。



高台にある不動堂は東日本大震災の際、津波の被害を免れ、多くの人が避難し復興の活動拠点となった。



境内にはソメイヨシノや枝垂れ桜の木々が数多く植えられており、春には満開の花が参詣者を迎える。高台からは太平洋、陸前高田の市街地が一望できる。

岩手県陸前高田市。この街の名を聞いて何を思い浮かべますか？ 観光地としても有名ですが、多くの方は「東日本大震災の被災地」として記憶されているのではないのでしょうか。この地に、津波によって本堂や庫裡の全壊という甚大な被害を乗り越え、本堂の再建を果たされた寺院があります。

——如意山金剛寺。今回は、震災から六年半後の平成二十九年十月に本堂が落慶し、復

この桜たちに覆われるように不動堂が位置します。ここのお不動さまは秘仏ですのでご尊顔を拝することはできませんが、弘法大師が一刀三礼で敬刻された真言宗智山派大本山成田山新勝寺のご本尊さまの分霊といわれています。東北三十六不動尊霊場の第二十四番札所であり、地元では「気仙成田山」として親し

まれ、毎年多くの方が巡拝されています。

東日本大震災、復興への道のり

未曾有の大震災が東日本を襲い、岩手県において最も被害が大きかった場所が陸前高田市でした。津波により市内の半数近くの家屋が全壊し、避難所に指定

とは全く考えなかった」とご住職。震災から間もなく「自分のできること、住職としてできること」に進進されます。百二十六名もの金剛寺檀徒が震災の犠牲になり、葬儀の続く日々。また、震災直後から本堂の再建を決意し、その一歩としてがれきの撤去作業や清掃活動を始めます。そこには金剛寺檀徒もボランティアとして参加されました。その中には自宅も流され、ご家族を亡くされたにもかかわらず、「まずはお寺の復興を」とご協力された方もいらつしました。犠牲となられた方の供養をすることで遺族がどれだけ救われたことか。復興祈願が被災者にとってどれほど励みになったことか。お寺だからこそ、僧侶だからこそできることがあります。

被災地の状況が刻一刻と変化していくなかで、ご住職と檀信徒は、決してぶれることなく本堂再建の道を歩みました。逸る気持ちとは裏腹に、計画がなかなか進まず、もどかしい時間だけが過ぎた時期もあったそうです。それでもさまざまな難題を乗り越え、震災から六年半、寺院の再建を果たされました。

金剛不壊

不動堂前の掲示板には、震災前と震災直後の陸前高田市の風景写真が掲示されています。境内から眼下に広がる旧市街地を眺める



震災後、自力でプレハブ住宅を建てて生活を始めた方の安全祈願に向かうご住職。



震災直後の金剛寺本堂。津波の威力の大きさを物語る。



本堂跡地において、東日本大震災で犠牲になった方への供養と、復興を願う柴燈護摩が勤修された。



震災直後から金剛寺檀徒や県内寺院僧侶、全国の若手僧侶などがボランティア活動に動きました。

金剛寺の震災直後から復興に向かう様子 写真提供／金剛寺

壊し、避難所に指定されていた学校や地域の集会所はすべて津波で流され、死者・行方不明者は合わせて一七〇〇名を超え、実に市の人口の七％超が震災の犠牲になりました。金剛寺も、本堂や平成二十一年に建立したばかりの庫裡が押し流されました。しかし、不動堂のある高台は難を逃れ、当時はそこに多くの方が避難してきたそうです。

大きな被害を受けた金剛寺ですが、「ここを出ていくこ



7万本あった高田松原で、たった一本だけ津波を耐え抜いた「奇跡の一本松」。復興のシンボルとして、近くまで訪れることができる。

と、すべてを飲み込んでいった津波がどれだけ大きなものだったか、自然の持つ力を前にしては何もできないのか、そんな思いが浮かびます。しかし一方で、陸前高田の街が少しずつ復興に向かって歩みを進める様子を見る

と、決して無力などではなく、どんなにつらいことでも乗り越えていくような根源的な「生きる力」を感じたように思います。金剛寺は、本堂再建を果たされました。それは、あきらめることなく復興に邁進するご住職、陰で支える寺院婦人、何より金剛寺の復興を願う檀信徒の強い思いがあり、それらに鑑みれば、再建できたことは決して「奇跡」ではなく、「必然」といった方が相応しいでしょう。

陸前高田市は現在、津波の被害があった旧市街地のかさ上げ工事の真っ只中です。復興を果たすには、まだまだ時間もかかります。だからこそ今、復興の思いが形と



新本堂後ろの高台から陸前高田旧市街地を眺めると、すべてを飲み込んだ津波の凄まじさを窺い知れると同時に、街は復興に向けて一歩ずつ着実に歩みを続けていることが分かる。



境内中腹にある聖天堂前には、この場所まで津波が到達したことを記す石碑が建てられている。

ACCESS アクセス

如意山金剛寺
 鉄道・BRT JR大船渡線気仙沼駅よりBRTバスにて陸前高田駅下車。駅より車にて7分。
 バス 池袋、仙台、一ノ関駅より陸前高田市役所前停留所下車。停留所より車にて10分。
 車 東北道一ノ関ICから陸前高田方面約1時間20分。盛岡ICからは約2時間30分。

〒029-2204
 岩手県陸前高田市気仙町町裏26 電話 0192-55-3662

なった金剛寺へ訪ねてほしいのです。どんな状況でも、決してあきらめない心、折れない心、まさに「金剛」の心というものを皆さん自身で感じていただきたいのです。

(文／智山教化センター所員 花木義賢)

写真／清水健



小林信雄ご住職。今後は写経会や地藏盆など、震災によってできなくなった行事を再開していきたいと力強く語られた。



とうきようべついでんしんぶくじ せ が き え 東京別院真福寺の施餓鬼会。読経だけでなく、御詠歌をお唱えて大勢の方々が先祖さまの供養をいたします。

特集

お寺の行事に参加しよう ご先祖さまを供養する年中行事

—お施餓鬼・お盆・お彼岸—

今、私たちがこの世に存在しているのは、ご先祖さまのおかげです。お父さん・お母さん、おじいちゃん・おばあちゃん、ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃん……。誰ひとり欠けても、今の自分はこの世に存在していないのです。

よく、「私は一人で生きている」という人がいますが、一人で生きていることはありません。自分が生まれる前に親がいて、そのまた前に親がいて……。数え切れない多くのご先祖さまにご縁をいただきこの世に誕生し、さらに周りの多くの方々のご縁によって今を生きているのです。いや生かされているのです。顔も知らないご先祖さまがいてくれたおかげで、今ここに、この命を受け継いでいるのです。

じんしんろう いまずで 人身受け難し いまずで 今既に受く おつぼろき 佛法聞き難し いまずで 今既に聞く …… (三歸禮文)

【人間として生まれることはまれなのに、今その生をうけています。さらに仏さまの法に出会っています。】※『智山勤行式』解説より

ご先祖さまがいなければ、この世に生を受けることはできなかった。真言宗智山派の「わたしたちの目標」である「生きる力」を授かることも、「仏さまに祈り、仏さまと出

会う」こともできなかったという意味でも、大きなご恩があります。ご先祖さまに感謝してしっかりと生きていくことが大切なことなのです。

ご先祖さまとは

ご先祖さまは私たちの命の源です。遡れ

るまで遡ったすべての方々がご先祖さまとなります。もちろん、すべてのご先祖さまを供養することが大切なことですが、すべて遡って供養することはなかなか難しいでしょう（十代遡ると二千四十六人、十五代遡ると六万五千五百三十四人、二十代で二百万人超え、三十代遡ると何と二十一億人を超えます）。

※親族同士で結婚している場合は、その上の

世代が重複しますので、現実的に過去にこの人数の人が存在していたというわけではありません。

そこで仏教には「七世しちせいの父母」という捉え方があります。七代遡った方々を、まずはご先祖さまとしましょうということです。自分

から見て両親を一代目、祖父母を二代目、曾

祖父母を三代目……という形で七代遡ります。「両親は二

人、祖父母は四人、曾祖父母

は八人と倍々に増えていきます

す。すると七代遡ると

二百五十四人もの縁のあるご

先祖さまがいらっしゃるとい

うことになります。

（七世の父母とは自分の前世で

の父母、前々世での父母……とい

う形で七回生まれ変わった「七

生」それぞれの時の父母という捉

え方もあります）

「うちは何十代も続いている

由緒ある家系で、七代以上、

何十代も前のご先祖さまも供

養していますよ」という方も

いらっしゃるすよね。しか

し、その何十代というのは父

方で直系のご先祖さまだけだ



真言宗智山派の「わたしたちの目標」は「生きる力—仏さまに祈り、仏さまと出会う—」です。お寺の行事に参加され、菩提寺のご本尊さま、仏さまとなられているご先祖さまに祈り、出会い、見守られ、生きる力を授かりましょう。このポスターのイラストにはお寺で行われる年中行事に関連するものが描かれています。お盆をイメージする蓮、両岸が彼岸と此岸で彼岸など。ぜひ菩提寺で実物のポスターをご覧ください。

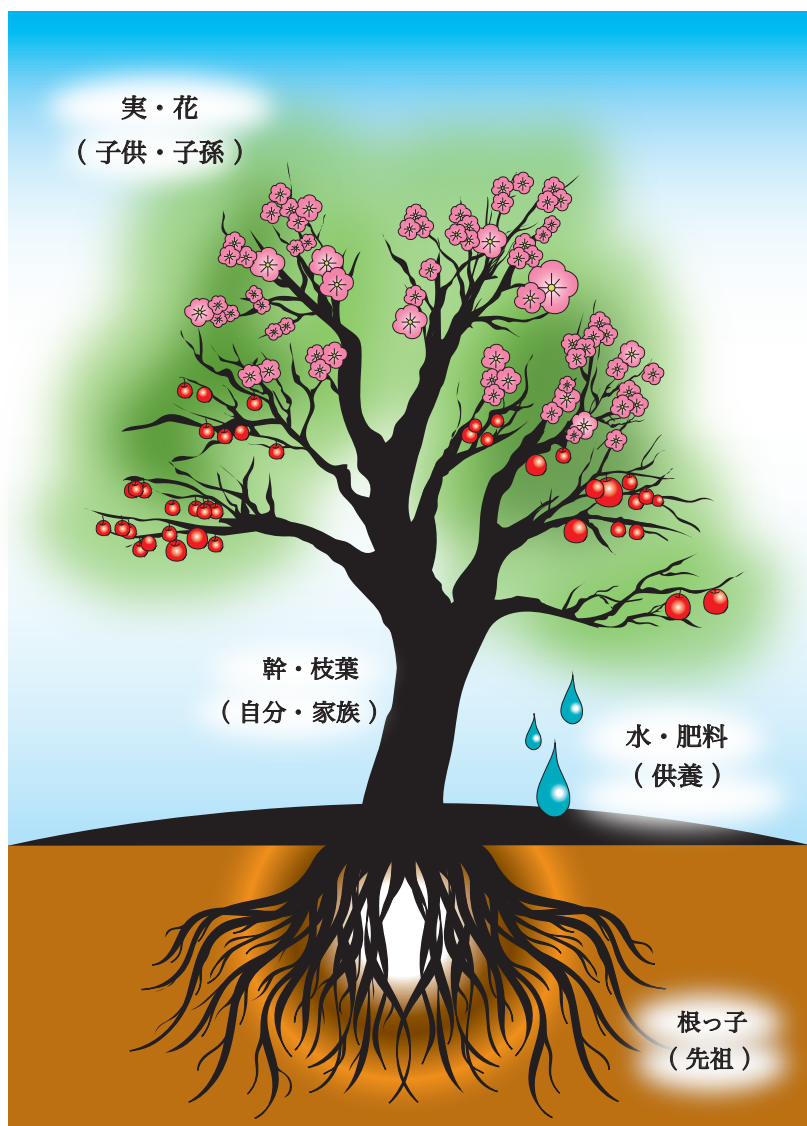
と思います。母方も含めた七代遡った二百五十四人すべて供養しているよという方はまずいのではないのでしょうか。

これだけ多くのご先祖さまがいらっしゃるわけですので、良いことをした方ばかりではないかもしれません。しかしそのご先祖さまがいてくれたお陰で、今私たちは生かされているわけです。どんなご先祖さまにも「おか

げさまで。ありがとうございます」と感謝する心を持ち、ご供養することが大切なことなのです。

何故先祖供養をするのでしょうか？

では、何故ご先祖さまを供養するのでしょうか。木に例えると分かりやすいと思います



イラスト／川俣光祥

（イラスト参照）。目に見える幹や枝や葉が今を生きる私たちや子供・孫・その先の子孫となり、目に見えない地中の根っ子をご先祖さまと考えます。

私たちは、目に見える花や実にはばかり気をとられて、あまり根の部分は気にしていませんよね。しかし根を大切にしないで、きれいな花だけを咲かせようとしても難しいですよね……。根がしっかりと大地にはりめぐらされ、その養分が幹をとって、枝葉にいきわたり、自然と美しい花が咲いておいしい実になります。

幹が今を生きる私たち、そして花・実が子孫です。つまり、私たちが今この世を謳歌させていただけているのは、根であるご先祖さまからの栄養をいただいているおかげなのです。見えない根に水や肥料を与える、それによって幹は成長し、花がきれいに咲き誇り、おいしい実がなるのです。根に水や肥料を与えることが供養ということなのです。供養をすることによって今を生きる私たちそして子供・孫・ひ孫……と、ご先祖さまに見守られ幸せに成長をしていくのです。

ご先祖さまへの供養は、根を元気にできる絶好の機会です。お寺の行事やお墓、お仏壇で、「ご先祖さま、いつも見守ってくれてありがとうございます」と手を合わせてみてください。ご先祖さまも喜ばれ、今度は子孫が

元気に幸せに生きていけるように応援してくだ
さいますよ。

お寺で行われる先祖供養の 年中行事に参加しよう

さて、寺院においてご先祖さまを供養する
年中行事は、「春秋のお彼岸」と「お盆」が
あります。また、多くの寺院で行われている
「お施餓鬼」もご先祖さまを供養する法要で
す。ぜひ、お寺の行事に参加され、ご先祖さ
まのご恩に感謝し、私たちをいつも見守って
いただけるよう、ご供養いたしましょう。

これら行事の由来や意義については菩提寺
などでお聞きすることも多いと思います（詳
しく知りたい方はお寺の行事に参加されご法話等
でお聞きください。又は智山派で発行している「仏事
がわかるリーフレット」をご参照ください）。

それぞれの行事には下記のような心持ちで
ご参加いただき、ご先祖さまへのご供養をい
たしましょう。

（智山教化センター所員 上村正健）



行事参加の心持ち

お 盆

精霊棚を設け、ご自宅にご先祖
さまをお迎えし、共に過ごしま
しょう。



仏事がわかる
リーフレット
VOL.8「お盆」

お 彼 岸

ご先祖さまへのお便りでもある
お塔婆を建立し、お墓参りをし
ましょう。



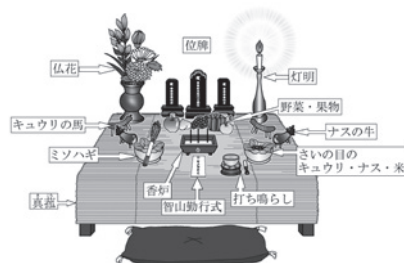
仏事がわかる
リーフレット
VOL.7
「お彼岸とお墓参り」

お施餓鬼

ご先祖さまを始め、あらゆる精
霊に供養のまごころを捧げま
しょう。



仏事がわかる
リーフレット
VOL.3
「お施餓鬼ってなに？」



この精霊棚の飾り方は、あくまで一例ですが、特徴的なもの
が、さいの目に刻んだナスやキュウリといっしょに洗米などを
盛った「水の子」と、みそはぎの束を置いた水「間加水」です。
手を合せる時には、みそはぎの束に間加水を含ませて「水の子」に注ぎ、ご先祖さまを供養します。



お墓参りの仕方やお盆の精
霊棚の飾り方などをしっか
りと身に付け、ご先祖さま
に感謝の心をもってきちん
と供養することはとても大
切です。本宗でもさまざま
な資料をご用意しておりま
すので、どうぞご活用くだ
さい。

ち しゃくいん かんげつ え 智積院「観月会」のご案内

日 時:平成30年9月24日(月・休日)中秋 18時より(17時開場・21時閉門)

於 :智積院講堂

プログラム

第1部



◆ 声明公演 ◆ 瞑想体験「月輪観」

第2部

◆ お月見コンサート

Marché de Sons Tommy(トロンボーン)
上村 美智子(ピアノ)

チケット

- ◆ 前売り券 3,700円
 - ◆ 当日券 4,200円(枚数限定)
 - ◆ 智積院会館宿泊パック 9,000円(枚数限定)
- ※但し一部屋2名以上でお願いします。
(通常の宿泊一泊朝食付6,670円に観月会チケットが含まれます)
※チケットは全て月見弁当・お茶付きです

チケットお申し込み・お問い合わせ

TEL 075-541-5363(智積院会館)

詳細は総本山智積院ホームページをご覧ください
<http://www.chisan.or.jp>



京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL : 075-541-5361 FAX : 075-541-5364

宿坊 智積院会館

宿泊料金6,670円

(朝食・灯明料・税込)

ご予約・お問い合わせ

TEL 075-541-5363

・JR京都駅よりバス約10分

・京阪電車七条駅より徒歩約10分

※智積院会館新築工事のため、

平成30年12月13日(木)より

宿泊利用並びに館内利用を休止い

たします。

※工事中はご不便をおかけいたします

が、あらかじめご了承ください。

写経のついで

毎月21日 13時より

於 金堂

納経料 千円

智積院阿字観会

毎月12日 14時より(受付13時より)

※8月と12月は8日 14時より

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・要事前申込)

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL : 03-3431-1081 FAX : 03-3431-0203

愛宕薬師(縁日)(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日

・大護摩供法要 12時より

・写経会(納経料千円) 14時より

※初めて写経に参加される方は13時30分

までに受付にお越しください

6月8日(金)

7月6日(金)

8月8日(水)

※6月7日(木)に施餓鬼会(15時より)を

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭千五百円)

6月21日 談志一門会

7月19日 三遊亭

8月17日 談志一門会

真福寺阿字観会

昼の部15時・夜の部19時より

於 本堂(無料・要事前申込)

6月26日(火) 7月24日(火)

8月28日(火)

愛宕薬師フォーラム(無料)

6月22日(金) 14時より

「魅惑の仏像たち」

東京藝術大学大学院教授／

鮎内 佐斗司先生

Facebook ページを開設しました



智積院

検索

